―調査報告―

金峯山寺所有　新出の金峯山経塚出土紺紙金字経について

藤田励夫・荒木臣紀

はじめに

奈良県・山上ヶ岳山頂の大峯山寺山上本堂周辺において、主に平安時代に営まれた複数の経塚を総称して金峯山経塚という。

本稿で報告する紺紙金字経は、近年、金峯山寺内から発見された全一九二紙を数える大部なものである。これらの調査は文化庁文化財第一課書跡・典籍部門と奈良県教育委員会文化財保存課が担当し、[1]糊離れして混乱していた経典の各料紙が、いずれの経典のどの箇所に該当するか確認すると共に筆者の同定を行った。また、各所に所蔵されている藤原道長と曽孫の藤原師通が書写・埋納した紺紙金字経についても同様の調査を行った。その結果、新たに発見された全一九二紙は全て既に知られている金峯山経塚出土の道長・師通筆埋納経と元は一体のものであり、道長筆が一〇六紙、師通筆が八五紙であることが分かった。そのほか、文字の無い巻末の軸付紙一紙がある。なお、新たに発見されたのは、経典の他に経帙一帙、経軸五本、軸端三箇がある。

また、経典の金字、界線、軸端の材質については、荒木が蛍光エックス線分析を行い、調査結果については本稿第三節で詳述する。

第一節　既知の藤原道長・師通筆埋納経の概要について

金峯山経塚出土の遺物については石田茂作・矢島恭介『金峯山経塚遺物の研究』（帝室博物館学報八、一九三七年）があり、紺紙金字経や経箱についても基礎的な研究がなされている。この研究に導かれながら、以下に道長・師通筆埋納経の概要を述べる。

金峯山経塚のうちで、年紀の分かる確実な例としては藤原道長（九六六～一〇二七）の埋経が最古である。道長は、寛弘四年（一〇〇七）八月十一日、金峯山に参詣し山上の本堂の前に立てた金銅灯籠の下に経を経筒に納めて埋納した。この経筒は元禄四年（一六九一）出土と伝えられて現存しており、金銅藤原道長経筒（金峯神社所蔵、明治三十五年重要文化財指定、昭和二十七年国宝指定）として国宝指定されている。この経筒の銘文から、道長が埋納した経典は自ら書写した一五巻であり、その内訳は「妙法蓮華経一部八巻、無量義経、観普賢経各一巻、阿弥陀経一巻、弥勒上生下生成仏経各一巻、般若心経一巻」であること、また、「法華経」は「先年奉書」したものだが参詣がかなわず京洛に於いて供養したもので、「阿弥陀経」と「弥勒経」は「此度奉書」したものであることが知られている。経典の奥書からも「先年」は長徳四年（九九八）、「此度」は寛弘四年に当た

ることが分かる。

また、道長の曾孫にあたる藤原師通（一〇六二～九九）は、寛治二年（一〇八八）七月と同四年八月の二度にわたって金峯山に詣でて埋経した。紙本墨書藤原師通願文（寛治二年七月廿七日）（昭和十四年重要文化財指定）によると、寛治二年には「金泥妙法蓮華経一部八巻、無量義経、観普賢経、般若心経、金剛寿命経各一巻」計一二巻を「銅函」に納めて埋納したことが知られている。各所に所蔵されている師通願経は、明治時代の神仏分離以前に出土したものと推測されている。

道長以降、曾孫の師通以外にも子の頼通、白河上皇などが金峯山に参詣したことが知られている。彼らが埋納したと思しき遺物は各所に所蔵されているが、現存する紺紙金字経は道長と師通埋納のものだけが知られている。現在は所在不明であるものも含めて、既知のものに新出のものを合わせて知りうる限りの紺紙金字経三二二紙について、表1に一覧としてかかげておいた。これらの紺紙金字経は一部の料紙を欠いている場合が少なくなく、欠失箇所はすでに滅失してしまったか、何処かに秘匿されていて再発見される可能性がある箇所である。なお、表一にかかげた紺紙金字経には重複箇所は皆無であり、経文から料紙の前後に互いに接続することが確実なものが多い。後述するように、筆跡からもこれらが金銅藤原道長経筒の銘文や藤原師通願文に記されるとおり、道長と師通の自筆であることは疑う余地がない。

金峯山経塚出土の主な経典、経箱等については、前述の道長の経筒の他にも国指定品だけでも次のものがある。

①国宝・大和国金峯山経塚出土品（金峯山寺所蔵、明治三十四年重要文化財指定、昭和二十七年国宝指定、考古資料）

金銀鍍双鳥宝相華文経箱一合と金銅経箱（台付）二合、および附指定として紺紙金字法華経七紙、紺紙金字観普賢経二紙、経軸二本から成っている。附指定の紺紙金字経九紙はいずれも師通願経であるが、本指定の経箱三合のうちのいずれも師通願経の経箱であるとは特定できない。経軸のうち一本は鍍銀八角軸であるが、一本は金銅撥型軸で師通願経よりやや時代が下がると推測される。なお、金銀鍍双鳥宝相華文経箱は白河上皇が寛治六年（一〇九二）七月十三日に埋納したとする説がある。(2)

②重要文化財・大和国金峯山経塚出土品（金峯神社所蔵、昭和二十八年指定、考古資料）

鍍銀経箱一合、金銅経箱台残闕一枚、紺紙金字法華経の残闕ほか無量義経、弥勒上生経、弥勒下生経の残闕等から成っている。道長願経五六紙と師通願経二三紙があり全七九紙である。

③重要文化財・大和金峯山経塚出土品（五島美術館所蔵、昭和三十年指定、考古資料）

紺紙金字仏説弥勒成仏経残闕、法華経巻六残闕、無量義経残闕から成っており全一八紙、いずれも道長願経である。

④重要文化財・大和金峯山経塚出土法華経巻一残闕（東京国立博物館保管、昭和三十年指定、考古資料）

道長願経三紙で、長徳四年の奥書がある巻末箇所である。

⑤重要文化財・紺紙金字法華経〈巻第八断簡〉（京都国立博物館保管、昭和十四年指定、書跡・典籍）

師通願経全九紙であり、巻末には寛治二年七月廿七日の師通奥書がある。(3)

第二節　新出の藤原道長・師通筆埋納経について

本調査報告で取り上げる紺紙金字経等は、金峯山寺内から近年発見されたものである。ただし、これらのうち六〇紙（道長筆四〇紙、師通筆二〇紙）は昭和十二年に刊行された『金峯山経塚遺物の研究』にその存在が示されているので、以前は知られていたものの、その後、所在不明になっていたものと考えられる。なお、同書に掲載されていない金峯山寺所有の新出経典は一三二紙にのぼる。これらを合わせての紙数は一九二紙[4]となり、表一の全三二二紙のうちで大きな割合を占めている。また、経典のほか全ての新出（正しくは再発見）の経帙、経軸、軸端も同書に掲載されている。

『金峯山経塚遺物の研究』未掲載の観普賢経と阿弥陀経には和紙の包紙がつけられ、「昭和廿二年四月八日調査」という墨書が認められた。よって、これらについては昭和二十二年にも調査の手が入っていたことが知られる。また、別に巻数等を墨書した小札が付けられた経典もあった。小札等の残り具合をみたところ、これらは『金峯山経塚遺物の研究』編纂時に付けられた可能性がある。

新出の道長筆一〇六紙は巻数にして九巻であり、その内訳は法華経巻第一、二、四、五、六、七、八、観普賢経、阿弥陀経である。これらはすべて料紙の下半が欠失していて、縦は最大一五・五糎である。紺紙に金界を施した料紙に金泥で一筆書写されている。金字は発色がよく、多くが紙背に裏写りしている。界線には目視では銀色に見えるものもあるが、第三節で述べる調査結果から金界と判断しておく。

法華経巻第五と八、観普賢経には長徳四年（九九八）の奥書（図1）がある。経筒銘には「法華経」は「先年奉書」したとあるが、金峯神社所有の無量義経にも長徳四年の奥書があるので、経筒銘にいう「法華経」は開結二経を含む法華三部経であったことが分かる。阿弥陀経には寛弘四年の奥書（図2）があり、経筒銘どおり埋納の年に書写されたことが知られる。これらの奥書釈文は後掲した。法華経巻第二には表紙の一部があり、一部は巻かれた状態で固着し、料紙が二重になっている。表紙に宝相華唐草文、見返に飛天、楽器、仏の顔と光背、右手が金泥で描かれている。なお、観普賢経と阿弥陀経は表紙は欠くものの本文全紙が新たに発見されたものとして特筆される。

長徳四年書写の法華経、観普賢経と寛弘四年書写の阿弥陀経を比較すると、前者に比べて阿弥陀経は料紙の紺色が濃く、金字の発色がよい。簀の目は、法華経、観音賢経は一寸に一八から一九本程度で、よく叩解されていない繊維束が多数観察できる。阿弥陀経についてもほぼ同様である。紙厚は、法華経は〇・〇四から〇七粍程度であるが、阿弥陀経は〇・二粍程度を計測できる箇所もあり法華経に比べて厚手である。紙継幅はいずれも三粍弱である。

本文文字については、各経典から同じ字を選んで比較を試みた。道長筆については、「時」（図3）と「説」（図4）を三字ずつ図版にあげた。「時」は、左は法華経巻八（一紙目七行目三字目）、中は観普賢経（一〇紙目七行目二字目）、右は阿弥陀経（二紙目三行目三字目）から集字した。左と中はよく似ているが、右は約十年の開きがありやや異なった印象を受ける。しかし、最終画の撥ねに同様の特徴がある。「説」は左は法華経巻一（六紙目九行目二字目）、中は法華経巻七（九行目一〇行目二字目）、右は阿弥陀経（五紙目尾題二字目）から集字した。

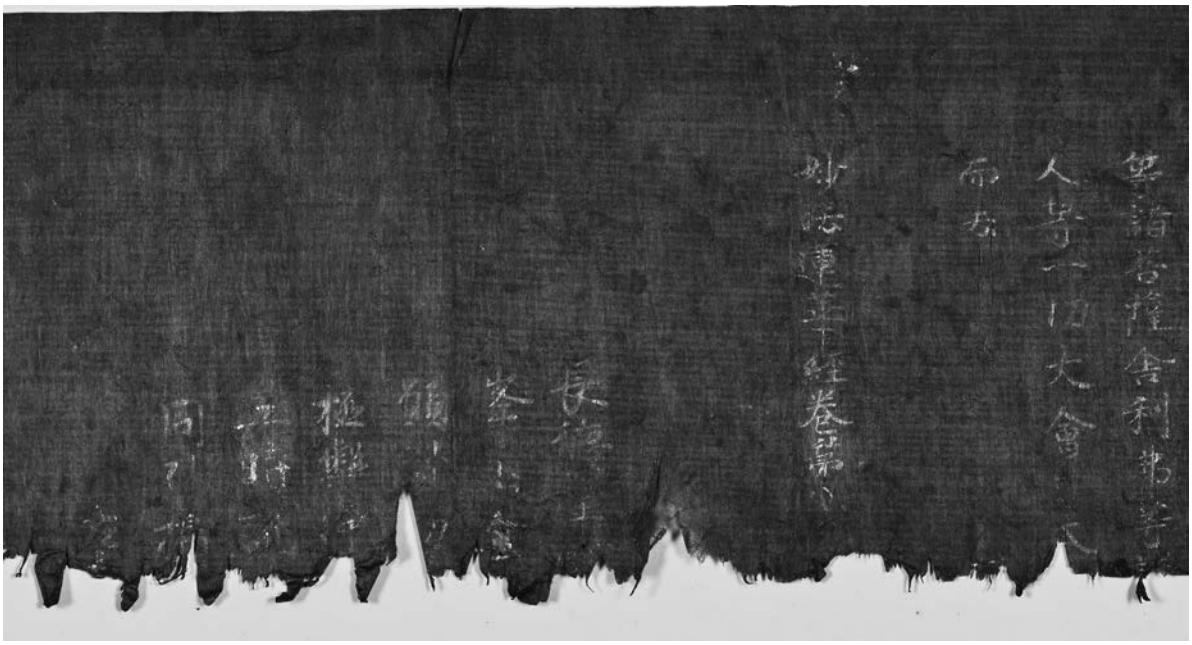


図１　藤原道長筆　法華経巻八巻末奥書

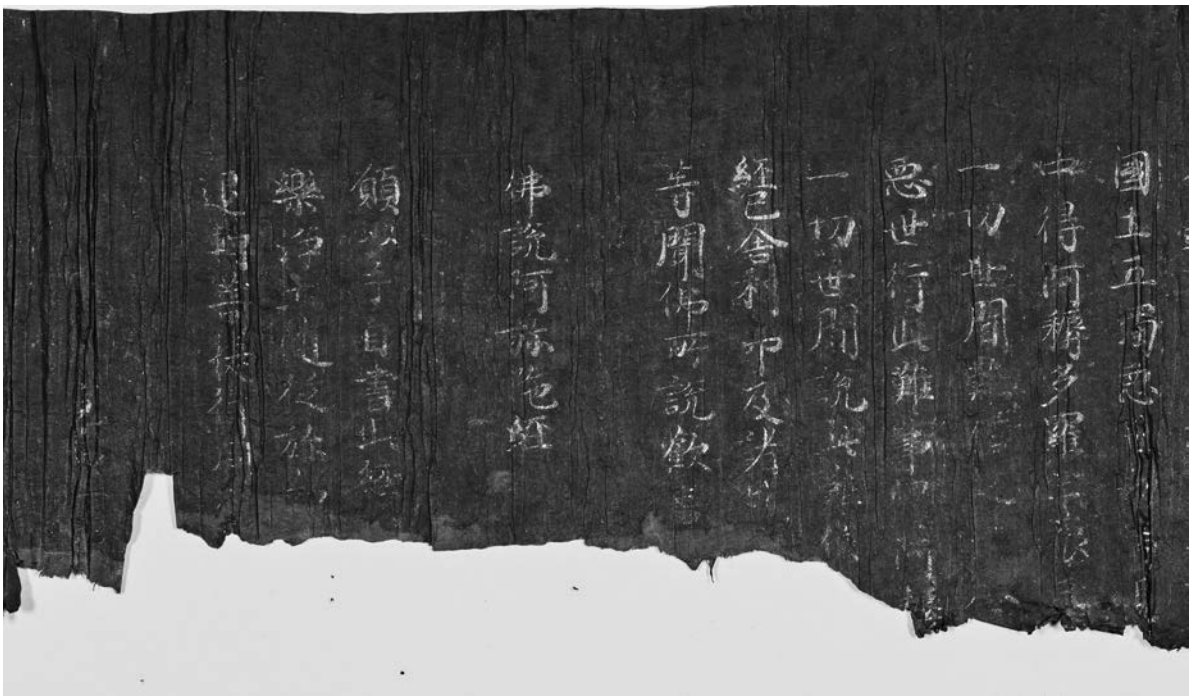


図２　藤原道長筆　阿弥陀経巻末奥書

図３　藤原道長筆「時」

図４　藤原道長筆「説」

図５　藤原師通筆「為」

図６　藤原師通筆「是」

図７　藤原師通筆　法華経巻五巻末

図８　経軸

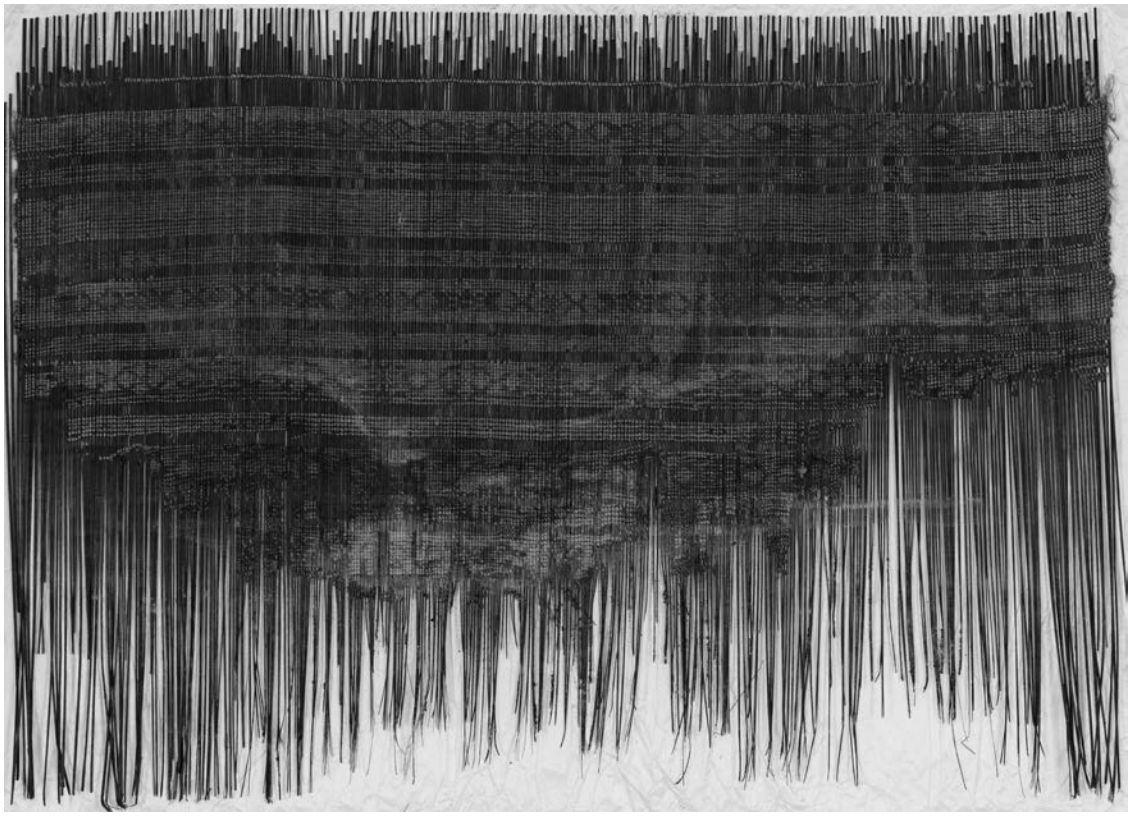


図９　経帙

図10　附属裂

左・中と右では、やはりやや異なる印象を受けるが、二画目の長く伸びた横線や最終画の撥ねに同様の特徴がある。このように字形からみても、経筒銘文にあるとおり道長が一筆書写したものと認められる。

師通筆八五紙は巻数にして同じく九巻に分かれる。その内訳は法華経巻第一、二、四、五、六、七、八、無量義経、観普賢経である。料紙の天地はおおむね残っていて、縦は最大二七・八糎になる。紺紙に金界を施し、金泥で一筆書写されている。道長願経に比べて金字の発色は鈍く、紺紙の色も薄い。全ての料紙紙背に金字が裏写りしている点は同じである。巻末が残る巻では、巻末近くの料紙に上下に白くなった箇所が連続して認められる（図7）。上は長方形、下は上部が丸味を帯び、縦に互い違いになるように並んでいる。本経のように念を入れて書写された経典であれば一本軸の使用が予想されるが、これらの白い箇所は合せ軸を使用した跡である。天永四年（一一一三）の高野山奥院経塚遺物の紺紙金字経は合せ軸を用いており、経巻の巻末に同様の痕跡がある。なお、⑤京都国立博物館保管の紺紙金字法華経〈巻第八断簡〉には、寛治二年七月廿七日の師通奥書（後掲参考史料）がある。新たに発見された紺紙金字経は、奥書のあるこの経巻と同様の特徴を備えており、寛治二年師通書写とすることができる。

法華経巻八は、第八紙から第一六紙があり、京都国立博物館保管分と合わせると表紙から巻末までが完存している。金峯山寺所有の同巻の料紙は極めて保存が良く欠失箇所がほぼ認められない点は特筆すべきである。

師通願経の簀の目、紙厚、継目幅は道長願経の法華経等と大差ない。なお印文不明の朱方印（縦横二・八糎）が捺された料紙もある。紙背に多いが表に捺された場合もある。多くは料紙整形時に一部を切断されている。

本文文字については、「為」（図5）と「是」（図6）を図版にあげた。「為」は、左は法華経巻五（一三紙目二六行目三字目）、中は法華経巻八（一一紙目一三行目二字目）、右は法華経巻六（八紙目五行目四字目）から集字した。「是」は、左は法華経巻二（八紙目一五行目一〇字目）、中は法華経巻八（一三紙目二行目五字目）、右は法華経巻七（六紙目八行目一字目）から集字した。いずれも同時期に書写されたもので字形には同様の特徴があり、藤原師通願文にあるとおり師通が一筆書写したものと認められる。

経軸（図8）五本のうち三本は、①国宝・大和国金峯山経塚出土品の附指定であった鍍銀八角軸と同様のもので、うち二本は片方の軸端を欠いている。これらは木軸の中程までが黒ずんでおり、道長筆の経典の全てが下半を欠失しているのと対応していて道長願経の経軸であった可能性が高い。他の一本は、やはり国宝の附指定であった金銅撥型軸と同様であり、片方の軸端を欠く。もう一本はそれと同寸であるが両軸端を欠く。軸端三箇のうち二箇は経軸に付いているのと同様の金銅撥型であり、もう一箇は円筒型である。

経帙（図9）は、色糸をもじって黒い竹籤を編んだもので菱繋文様が認められる。また、綾地の錦断片（図10）は遼または平安時代のものとみられ経帙の一部であった可能性がある。このような竹籤を編んだ経帙は現存例が少ないが、古くは正倉院の天平十四年（七四二）最勝王経帙がある。経塚出土のものでは、前述の高野山奥院経塚遺物の経帙がある。本経帙も道長願経と同じく半分がほぼ欠失してい

る。なお、経軸、軸端、経帙の基本データは表二にまとめた。

道長願経、経軸、経帙は同じくほぼ半分が欠失したり黒ずんだりしている。これは経筒の中に立てて納入され、半分近くが損傷したものであろう。経筒の内面を観察すると、経筒の上半分と蓋裏の一部に白い固着物があり、経典や経帙の一部が傷んで固着したものと推測される。三宅敏之氏もこの状況を指摘し、また、「経筒内における経巻の保存状態は、埋納の状況などにより必ずしも一様とは言い難いが、実例から推すと概して上部から朽損しはじめているようである。」と述べられている。[5] これらのことから、道長願経は、上下逆さまに経筒に収められていた可能性も考えられる。

また、銅イオンが防腐作用をもつという説もあるが、[6] 第三節では計測した全ての遺物から銅が検出されていることを指摘しているように、銅筒等に納められていたことが、道長願経、師通願経等が残った原因の一つかもしれない。特に道長願経は天の小口や経文上に緑の物質が付着し、一部は茶変しているのが観察できる。

ところで、道長の銘文がある経筒に道長願経が納められていたことは疑いのないところであるが、直径一五・三糎の経筒に一五巻もの経典が経帙に包まれた状態で入るのかどうか、疑問を感じないではなかった。前述したように道長筆の経典には金字がよく裏写りしている。文字だけでなく紙継目の凹凸も紙背に痕跡を確認できる。そこで、紙背の痕跡を観察することによって、巻子の円周を知ることができ、それによって巻子の直径を割り出すことができた。法華経巻一では直径三・二糎ほど、阿弥陀経だと直径二・二糎ほどになると推定される。これらの数値からも、経筒は一五巻を納めるに充分な容量であることがわかった。

第三節　蛍光エックス線分析結果

昨今、肉眼では金色に見える描画や文字などで金以外の金属が用いられている可能性を指摘されることを考慮して、金字の部分を中心に蛍光エックス線分析による材質調査を行った。その結果、今回測定した道長願経、師通願経の金字からは金（Au）が検出されていた。なお、各測定点で台に用いた机からチタン（Ti）、鉄（Fe）、亜鉛（Zn）が検出されているため、今回の解析対象から外した。

測定方法等

測定日：2022年8月29日（快晴）
測定場所：金峯山寺事務所2F。事務机上に薄葉紙を敷いた上に作品を設置。

測定機器：SPECTRO xSORT Combi XHH03（アメテック社）

管電流：50[μA]
管電圧：50[kV]
測定時間：30[s]
管球：ロジウム
メソッド：スタンダード

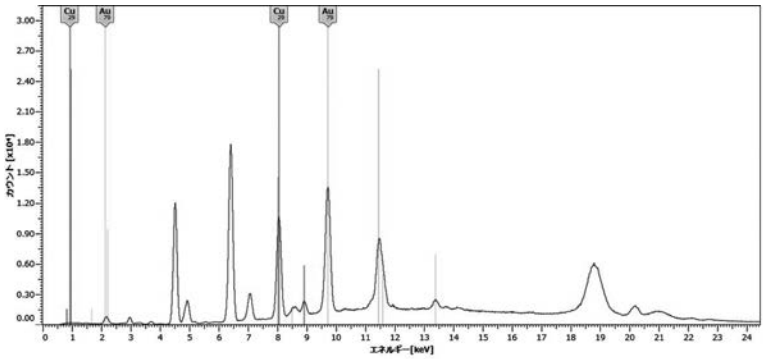
測定距離：約1[mm]

（一）測定結果

主な検出元素一覧

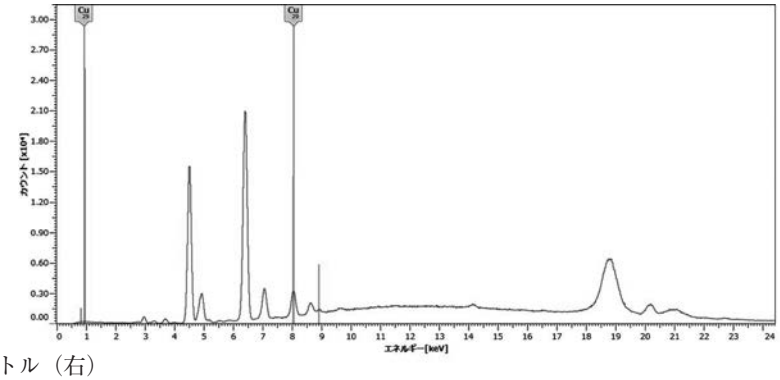
測定番号	測定箇所	主な検出元素				
1	道長筆法華経巻八の金字「時」		銅		金	
2	道長筆法華経巻八の紙		銅			
3	道長筆阿弥陀経金字「願」		銅		金	
4	道長筆阿弥陀経の紙		銅		金	
5	道長筆法華経巻二界線		銅		金	
6	師通筆法華経巻一「是」		銅		金	
7	師通筆法華経巻七「経」		銅		金	
8	軸端（八角）	鉄	銅	銀	金	
9	軸端（撥型）	鉄	銅	銀	金	水銀
10	経帙（竹部分）		銅			

測定１：藤原道長筆　法華経巻八「時」



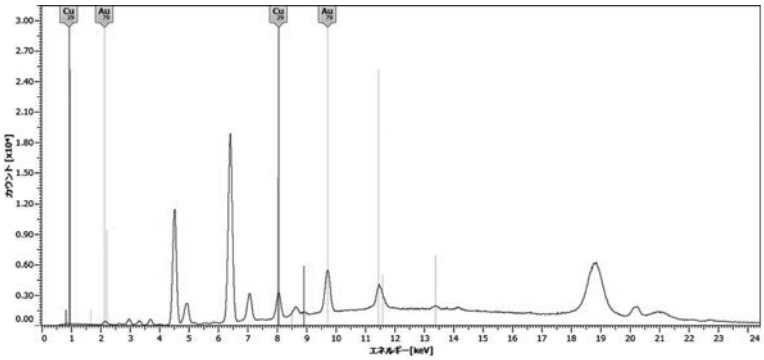
測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

測定２：藤原道長筆　法華経巻八の紙



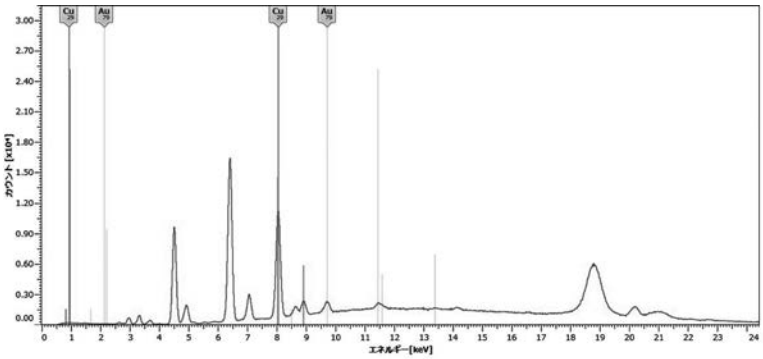
測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

測定３：藤原道長筆　阿弥陀経「願」



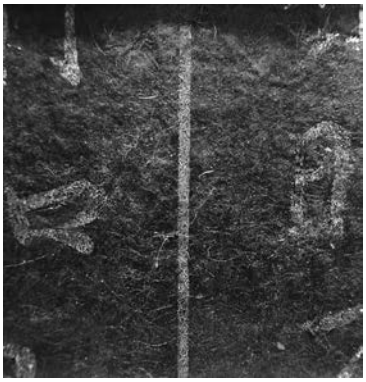
測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

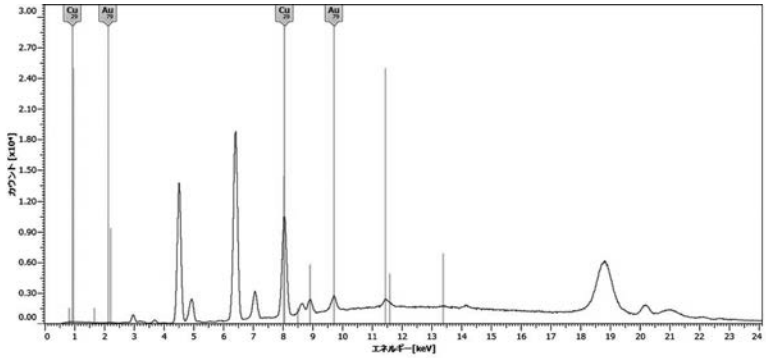
測定４：藤原道長筆　阿弥陀経の紙



測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

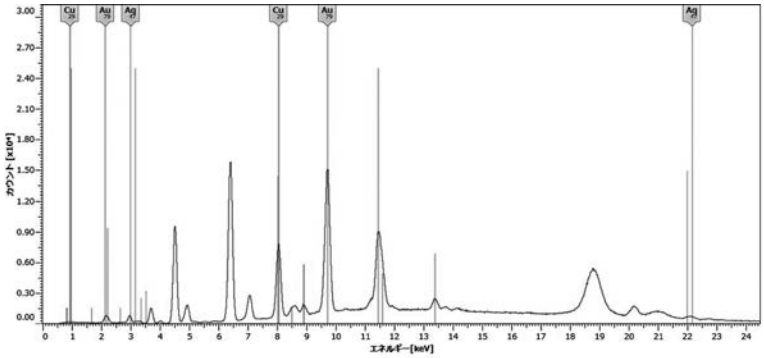
測定５：藤原道長筆　法華経巻二界線





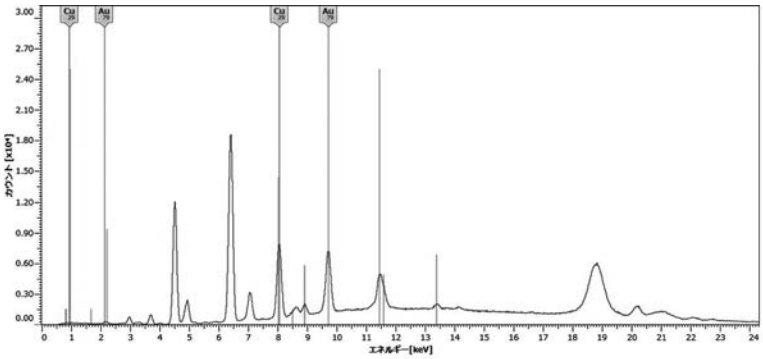
測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

測定６：藤原師通筆　法華経巻一「是」



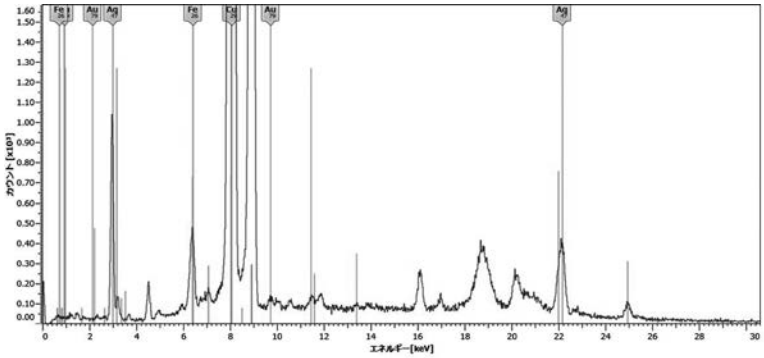
測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

測定７：藤原師通筆　法華経巻七「経」



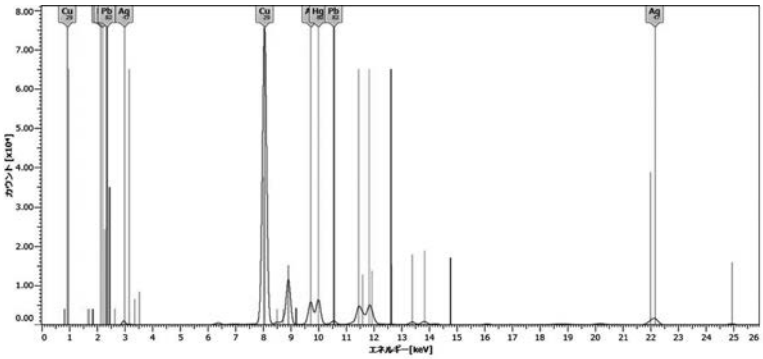
測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

測定８：軸端（八角）



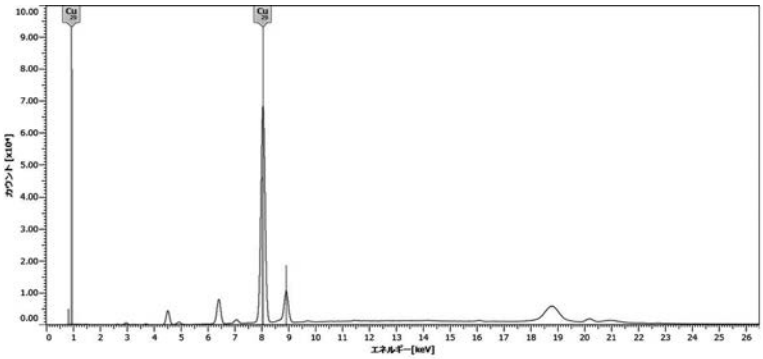
測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

測定９：軸端（撥型）



測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

測定10：経帙（竹部分）



測定箇所画像（左）と蛍光Ｘ線スペクトル（右）

（二）蛍光エックス線スペクトル解析の所見

本紙の全ての箇所から銅（Cu）が検出しており、銅製[7]と言われる経筒に収められていた経緯を考慮すると土中に埋納されている間に経筒内に発生、もしくは侵入した水によって経筒から移ってきた成分であると考える。金字の成分は予想通り金（Au）が検出さており、金泥が用いられている事が判った。測定箇所４の紙からも金（Au）が微量に検出されているが、今回はスペクトルを忠実に判断した結果であり、肉眼では金の存在を確認できなかった事から経年により金字の部分から移動していた微量の金が測定範囲に含まれていたために検出された可能性が高い。今後、同部分の顕微鏡観察などによって更に分析結果の精度を上げる事ができると考えられる。また、金字（Au）の測定箇所で得られた蛍光Ｘ線スペクトルは銀（Ag）の存在を予見するものであったため、詳細を調べたが銀（Ag）の存在を肯定的に捉えることは出来なかった。軸先に関しては八角形の軸と撥型の軸では表面の加工方法に違いがあった。両方の軸先から銅（Cu）と銀（Ag）が検出されているが、撥型の軸先からだけ水銀（Hg）が検出されており、撥型の軸先は鍍金が施されていることが判った。

結　び

ここまで述べてきたとおり、新出の紺紙金字経は、藤原道長と師通による極めて著名な金峯山経塚埋納経の一部であることが明らかにされた。つまり既知の経典と同じ特徴を有し、それらと重複なく接続することが確かめられたのである。併せて、既知の経典を大き

く上回る大部なものであることも明らかとなった。ここで報告する調査はそれらの実証のために実施され、本稿では調査で得られた基礎的なデータを示すと共に少々の新知見を付け加えることができた。

なお、本調査の成果を得て、新出の紺紙金字経を重要文化財に指定するという答申が、令和四年（二〇二二）十一月十八日に文化審議会から文部科学大臣へ出されることとなった。この指定の内訳は、金峯山寺が所有する前述の①国宝・大和国金峯山経塚出土品から、附指定であった紺紙金字経九紙と経軸二本を分割し、新出の紺紙金字経一九二紙のうち文字の無い一紙を除いた一九一紙を追加した計二〇〇紙と、附指定として経帙一帙、経軸七本（うち二本は①国宝から分割）、軸端三箇である。[8]

注

（1）文化庁からは藤田励夫、佐藤健治、岡村一幸、宮田直樹、青木一貴、奈良県からは山田淳平が調査に参加した。

（2）三宅敏之「金峯山経塚出土の『金銀花鳥唐草毛彫経箱』について」『木代修一先生喜寿記念論文集』第三巻、雄山閣出版、一九七七年。のちに、「奈良・金峯山経塚出土の金銀花鳥唐草毛彫経箱」と改題して『経塚論攷』（雄山閣出版、一九八三年）所収。

（3）金峯山経塚出土の師通の奥書として現存唯一であり、参考史料として後掲した。

なお、これらの他、埋経に関わる指定品としては、重要文化財・大和金峯山山頂出土（東京国立博物館保管、昭和三十五年指定、考古資料）には、其他銅経筒、仏像、鏡像、懸仏銅鏡等残欠一括がある。また、重要文化財・奈良県大峯山頂遺跡出土品（大峯山寺所蔵、平成三年指定、考古資料）には銅経筒残欠一括、経巻軸頭二一七箇がある。

（4）これらのうち師通願経七片は、発見時期が早かったため龍谷ミュージアムに寄託されている。七片のうち四片は各一紙分で、別の二片は接合して一紙分となり、残る一片は後から発見された紙片と接合して一紙分となるものである。つまり、五紙分と一片ということになる。

（5）三宅敏之「藤原道長の埋経」平安博物館研究部編『角田文衛博士古稀記念古代学叢論』一九八三年。のちに注2『経塚論攷』所収。

（6）杉山洋『浄土への祈り　経塚が語る永遠の世界』（雄山閣出版、一九九四年）でも指摘されている。

（7）石田茂作・矢島恭介『金峯山経塚遺物の研究』帝室博物館学報八、一九三七年。

（8）国宝・大和国金峯山経塚出土品は考古資料部門の指定で、これに含まれる紺紙金字経は師通願経九紙のみであり、経箱三箱の附として指定されている。また、本指定の経箱三箱のうちいずれかが師通の経箱であるかどうかは不明であるし、江戸時代に発見された状況は記録が無いので、今後、解明される可能性は極めて低いと考えられる。つまり、経箱三箱と紺紙金字経九紙を一括の指定にしておくことに必然性が薄いと認められた。これに比して、新たに発見された紺紙金字経は現存するなかで最大の規模を誇るものである。これらを国指定文化財に指定する場合、経箱の附指定として追加指定するよりも、経典単独で書跡・典籍部門の文化財として評価する方が相応しいと認められた。

参考史料

奥書

（法華経巻第五（藤原道長筆））

長徳四年［
金剛蔵王［
願以此功徳命終之［
随従弥勒慈尊聴聞［
提行同引攝法界［

（法華経巻第八（藤原道長筆））

長徳四年［
峯山金［
願以此功［
極楽浄［
五時説［
同引攝［

左大［
（観普賢経（藤原道長筆））
願以書此経功徳命［
浄土随従弥勒慈□（尊）［
退轉菩提行同引□（攝）］
長徳四年七月［

（阿弥陀経（藤原道長筆））
願以手自書此経［
樂浄土随従弥□（勒）［
退轉菩提行同［
寛弘四年□］

（法華経巻第八（藤原師通筆）（京都国立博物館保管））
持戒精進之間所奉書寫也六根之内耳根清浄
依思傳家女子要樞願以法華一乗之功必為龍
華三會之縁于時寛治二年七月廿七日　内大臣師通

謝辞

調査にあたっては、金峯山寺様をはじめ各ご所蔵者、保管機関には格別のご配慮を賜りました。また、龍谷大学教授神田雅章様には調査を始めるきっかけをいただきました。末尾ながら、記して謝意を表します。

（ふじた　れいお／文化庁文化財第一課主任文化財調査官）
（あらき　とみのり／奈良国立博物館学芸部保存修理指導室長）

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
308	4	無量義経	示為	27.6	48.4	14	24	21.1	2.1	3.0	3.3	金峯山寺	前1紙欠、天地完存
309	5	無量義経	演説	27.7	47.1	17	24	21.3	2.0	3.0	3.5	金峯山寺	天地完存
310	⑨	無量義経	子是	27.8	49.5	17	25	21.2	1.9	2.8	3.7	金峯神社	前3紙欠
311	⑩	無量義経	不爲	27.8	49.2	17	25	21.2	1.9	3.1	3.5	金峯神社	後8紙欠
312	⑧	観普賢経	口同音	25.5	49.4	17	25	21.3	2.0	2.6	3.3	金峯山寺	前7紙欠、小札
313	⑨	観普賢経	浄眼	27.0	49.3	16	25	21.4	不明	2.8	欠損	金峯山寺	小札
314	⑩	観普賢経	草聞	27.2	48.8	17	25	21.3	1.9	2.8	欠損	金峯山寺	小札
315	⑪	観普賢経	諸佛	23.4	49.2	15	25	不明	2.0	2.6	欠損	金峯山寺（京博）	
316	⑫	観普賢経	處亦能	21.4	48.5	17	25	21.3	1.9	2.8	3.5	金峯山寺	小札
317	⑬	観普賢経	滅度	22.2	49.3	17	25	不明	2.0	2.8	欠損	金峯山寺（京博）	
318	⑭	観普賢経	讀誦	27.5	48.9	17	25	21.3	2.0	2.6	3.6	金峯山寺	小札
319	⑮	観普賢経	在世	27.6	49.3	17	25	21.3	1.9	2.8	3.6	金峯山寺	小札
320	⑯	観普賢経	又摩	27.2	48.6	17	25	21.3	1.9	2.5	3.6	金峯山寺	小札
321	17	観普賢経		24.0	20.5	15～18							尾題「普賢観経」とする、※4
紺紙料紙													
322		軸付紙	(文字見えず)	25.9	8.0	―	―	―	―	―	―	金峯山寺	文字なし、軸付紙か、二つ折り、金泥・金粉付着、糊跡らしき茶汚損あり

※1 小札２枚あり。うち１枚には「金峰山寺」の黒印が捺されている。
※2 石田茂作編著『瓦礫洞古玩録』（石田茂作先生古稀記念会発行、1964年）に拠る。
※3 成田山書道美術館編『青鳥居清賞』古写経篇・解説篇（2018年）に拠る。
※4 松田光「仏教美術の脇役たち70　装飾経Ⅱ」（『骨董情報誌　小さな蕾』№567、2015年）に拠る。
※5 注1『金峯山経塚遺物の研究』に拠る。

凡例
・経典別通番欄には、経典ごとに表紙を0番、本文第1紙を1番とし、欠失している料紙は推定した紙数の番号をとばして表記した。
欠失箇所の推定紙数は備考欄に示した。
・注1『金峯山経塚遺物の研究』にその存在が示されている紙は、経典別通番に〇を付した。
・書出欄には、各紙の書出の2字を示した。書出の文字が判読できない場合は、できるだけ書出に近い位置の文字を示した。
・朱方印が捺されている場合は、備考欄に「朱印」として示した。
・巻数及び第何紙目かを示す墨書がある小札が貼られている場合は、備考欄に「小札」として示した。

表2　経帙・経軸・軸端一覧　　単位：cm

経帙　縦29.6 横41.3　錦断片　縦52.0 横4.5

経軸

①八角軸　１本　全長31.1 軸長25.5(軸端を除く)　軸径1.1　軸端　上　長さ2.8 径1.3 下　長2.8 径1.3
　軸の汚れが少ない側を上とした。以下同。
②八角軸　１本　全長38.7 軸長25.3(軸端を除く)　軸径1.0　軸端　上　欠 下　長3.0 径1.3
③八角軸　１本　全長30.2 軸長25.6(軸端を除く)　軸径1.3　軸端　上　欠 下　長2.7 径1.3
④撥型軸　１本　全長27.1 軸長23.7(軸端を除く)　軸径0.9　軸端　長さ2.3 径1.8 1箇欠
⑤軸　１本(軸棒のみ)　全長27.1 軸長23.8　軸径0.9

軸端

①撥型軸端　１箇　長さ2.4 径1.9 魚子地　甲盛に四弁花、軸部に花弁を刻む
②撥型軸端　１箇　長さ2.3 径1.9 魚子地　甲盛に四弁花、軸部に花弁を刻む
③筒型軸端　１箇　長さ2.2 径1.1

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
263	⑨	法華経巻第六	崛山	27.7	51.4	17	26	21.2	2.0	2.9	3.6	金峯山寺（京博）	
264	10	法華経巻第六	邊是	27.6	50.2	17	26	21.1	2.0	2.8	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
265	12	法華経巻第六	銀瑠璃	27.7	50.8	17	26	21.2	2.0	2.7	3.7	金峯山寺	前1紙欠、天地完存、朱印
266	⑬	法華経巻第六	可共									守屋孝蔵氏	※5
267	19	法華経巻第六	是人	27.6	48.1	20	25	21.0	2.0	2.8	3.8	金峯山寺	前5紙欠、天地完存、朱印
268	20	法華経巻第六	若獨	27.7	48.4	20	25	21.2	1.9	2.8	3.6	金峯山寺	白い跡あり、天地完存
269	㉑	法華経巻第六	妙法	27.3	21.1	1	8	21.3	2.0	2.9	3.6	金峯神社	尾題のみ、天地完存
270	①	法華経巻第七	爾時	27.7	46.8	17	25	21.2	2.0	2.9	3.6	金峯神社	首題欠、本文1行目からあり
271	2	法華経巻第七	悉礼（書出）、故得(最終行１・２字目)	27.6	51.3	17	25	21.2	2.1	2.7	3.7	金峯山寺	天地完存、朱印
272	3	法華経巻第七	四衆	17.5	51.2	17	26	21.1	2.0	2.7	3.8	金峯山寺(龍谷)	天地完存
273	4	法華経巻第七	不軽	27.6	51.1	17	26	21.2	2.0	3.1	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
274	5	法華経巻第七	放於	27.6	51.2	17	26	21.2	1.9	2.9	3.5	金峯山寺	天地完存、朱印
275	6	法華経巻第七	功徳	27.6	51.0	17	26	21.0	2.0	2.9	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
276	⑧	法華経巻第七	行等									伊藤庄兵衛氏	※5、前1紙欠
277	9	法華経巻第七	佛満	27.7	51.1	17	26	21.1	1.9	2.8	3.8	金峯山寺	天地完存
278	10	法華経巻第七	説是	27.7	50.7	17	26	21.2	1.9	2.8	3.7	金峯山寺	天地完存
279	11	法華経巻第七	等一切	27.7	50.5	17	26	21.1	2.0	2.8	3.8	金峯山寺	天地完存
280	12	法華経巻第七	弥山	27.7	50.5	17	26	21.1	2.0	2.8	3.8	金峯山寺	天地完存、朱印
281	13	法華経巻第七	是経巻	27.7	50.5	17	26	21.0	2.0	3.0	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
282	14	法華経巻第七	宿王	27.6	51.1	17	26	21.2	2.0	2.7	3.6	金峯山寺(龍谷)	天地完存
283	15	法華経巻第七	千万	27.7	51.5	17	26	21.2	2.0	2.6	3.8	金峯山寺（京博）	天地完存
284	16	法華経巻第七	寶以	27.7	51.0	17	26	21.2	2.0	2.7	3.7	金峯山寺（京博）	天地完存
285	17	法華経巻第七	情不	27.6	50.7	17	26	21.3	2.0	2.7	3.8	金峯山寺	天地完存、朱印
286	18	法華経巻第七	或現	27.7	50.4	17	26	21.2	2.0	2.8	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
287	19	法華経巻第七	経諸	27.7	34.8	17	10	21.3	1.9	2.7	3.7	金峯山寺	天地完存、(尾題)妙法蓮華経巻第七、奥書後に余白多い、巻末上下辺斜めに切断、白い跡あり、本文9行＋尾題1行
288	0	法華経巻第八	（見返）	15.0	2.0	―	―	―	―	―	―	京都国立博物館	巻第八は首尾完存
289	1	法華経巻第八	妙法	27.7	49.1	17	24	21.1	2.0	3.0	3.6	京都国立博物館	
290	2	法華経巻第八	怨賊	27.5	51.0	17	26	21.1	2.0	2.8	3.6	京都国立博物館	
291	3	法華経巻第八	即現	27.6	50.8	17	26	21.2	2.0	2.9	3.6	京都国立博物館	
292	4	法華経巻第八	世音	27.5	50.8	17	26	21.2	2.0	2.8	3.7	京都国立博物館	
293	5	法華経巻第八	蚖蛇	27.6	48.7	17	25	21.0	2.0	2.7	3.8	京都国立博物館	
294	6	法華経巻第八	誦解	27.7	48.5	17	25	21.1	2.0	3.0	3.5	京都国立博物館	
295	7	法華経巻第八	座〈誓〉	27.6	48.8	17	25	21.1	2.0	2.8	3.6	京都国立博物館	
296	8	法華経巻第八	読誦	27.5	48.8	17	25	21.1	1.9	2.8	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
297	9	法華経巻第八	説此	27.4	48.6	17	25	21.0	1.7	2.7	3.7	金峯山寺	天地完存、朱印
298	10	法華経巻第八	於虚	27.5	48.8	17	25	21.1	2.2	2.8	3.7	金峯山寺	天地完存、朱印
299	11	法華経巻第八	通達	27.6	48.8	17	25	21.2	1.9	3.0	3.4	金峯山寺	天地完存、朱印
300	12	法華経巻第八	我家	27.5	48.8	17	25	21.2	1.9	2.9	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
301	13	法華経巻第八	名字	27.5	48.5	17	25	21.1	1.9	2.8	3.6	金峯山寺	天地完存
302	14	法華経巻第八	諸悩	27.6	50.4	17	26	21.2	1.9	2.8	3.7	金峯山寺	天地完存、朱印
303	15	法華経巻第八	薩婆	27.5	50.1	17	25	21.2	1.9	2.7	3.6	金峯山寺	天地完存
304	16	法華経巻第八	経典	27.5	49.8	17	25	21.2	1.9	2.7	3.7	金峯山寺	天地完存、朱印
305	17	法華経巻第八	等諸	27.5	24.4	17	7	21.1	2.0	2.8	3.5	京都国立博物館	寛治二年師通奥書有り、本文3行＋尾題1行＋奥書3行
306	1	無量義経	大轉（２行目頭）	27.4	35.8	14	19	不明	不明	不明	3.2	金峯山寺	前4行欠
307	②	無量義経	了分（２行目頭）	27.9	49.1	17	25	21.2	2.2	3.2	3.6	金峯神社	

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
217	23	法華経巻第二	昔於	27.5	50.0	16(偈)	26	21.4	2.0	2.8	3.2	金峯山寺	
218	24	法華経巻第二	佛亦	27.5	47.7	16(偈)	22	21.2	2.0	2.8	3.3	金峯山寺	尾題の痕跡僅かにあるが文字は判読できない
219	25	法華経巻第二	妙法蓮華経巻第二	26.7	13.3	-	-	-	-	-	-	金峯山寺	軸付紙、白い跡あり
220	②	法華経巻第三	是諸(4～5行目3字目)	27.8	50.8	17ヵ	25～26	21.3	不明	3.0	3.5	金峯神社	前1紙欠
221	③	法華経巻第三	有智	27.8	50.8	16	26	21.2	2.0	2.8	3.7	金峯神社	
222	④	法華経巻第三	正見(2行目1字目)	27.8	50.7	16	26	21.1	不明	2.7	3.7	金峯神社	
223	5	法華経巻第三	漸漸	27.8	50.9	17	26	21.3	2.0	2.8	3.7	金峯神社	
224	⑦	法華経巻第三	義而	27.8	51.0	17	26	21.3	2.0	2.8	3.6	金峯神社	前1紙欠
225	⑧	法華経巻第三	億荘	27.7	50.7	17	26	21.2	1.9	2.7	3.7	金峯神社	
226	⑨	法華経巻第三	於諸	27.7	50.9	17	26	21.1	2.0	2.8	3.8	金峯神社	
227	⑩	法華経巻第三	我念	27.7	50.8	17	26	21.2	2.1	3.0	3.6	金峯神社	
228	⑪	法華経巻第三	恭敬	27.8	50.9	17	26	21.2	1.9	3.0	3.5	金峯神社	後11紙欠
229	⑤	法華経巻第四	索甚	27.8	51.7	17	26	21.3	2.0	3.0	3.5	金峯神社	前4紙欠
230	⑥	法華経巻第四	得佛	27.8	51.3	17	26	21.1	1.8	3.0	3.4	金峯神社	
231	⑦	法華経巻第四	我今	27.6	51.3	17	26	21.4	2.0	2.7	3.2	金峯神社	
232	⑧	法華経巻第四	已後	27.7	51.3	17	26	21.3	1.9	3.0	3.5	金峯神社	
233	11	法華経巻第四	如是	27.5	50.9	17	26	21.2	2.0	3.0	3.3	金峯山寺	前2紙欠
234	12	法華経巻第四	亦復	21.7	51.5	17	26	不明	2.0	3.0	欠損	金峯山寺（京博）	
235	13	法華経巻第四	不聞	27.5	50.8	17	26	21.2	2.0	2.8	3.3	金峯山寺	
236	14	法華経巻第四	切華	27.4	50.3	17	26	21.1	2.0	2.7	3.1	金峯山寺	
237	⑮	法華経巻第四	四衆	27.6	51.8	17	26	21.2	1.9	3.1	3.2	金峯神社	
238	⑯	法華経巻第四	餓鬼	27.4	51.5	17	26	21.3	1.9	3.0	3.1	金峯神社	
239	⑰	法華経巻第四	不以	27.4	51.2	17	26	21.2	2.0	2.8	3.2	金峯神社	
240	⑱	法華経巻第四	如恒	27.5	50.6	16	26	21.3	1.9	3.0	3.2	金峯神社	
241	⑲	法華経巻第四	暫讀	26.6	51.3	16	20	21.4	1.9	2.9	2.2	金峯神社	尾題まであり
242	④	法華経巻第五	是菩	25.7	51.5	17	26	21.4	2.1	2.9	欠損	金峯山寺	前3紙欠、小札
243	⑥	法華経巻第五	弥是	27.0	51.4	17	26	21.1	2.0	3.0	3.6	金峯山寺	前1紙欠、小札
244	⑦	法華経巻第五	有諸	26.2	50.1	17	26	21.1	1.9	2.9	欠損	金峯山寺	
245	⑧	法華経巻第五	為衆生	26.3	51.7	17	26	21.1	2.0	2.6	欠損	金峯山寺	小札
246	⑨	法華経巻第五	但以	27.4	51.1	16(偈)	26	21.2	2.0	2.8	欠損	金峯山寺	小札
247	⑩	法華経巻第五	若有	27.3	50.7	16(偈)	26	21.1	1.8	2.8	欠損	金峯山寺	小札
248	⑪	法華経巻第五	能演説	26.5	51.1	17	26	21.3	1.9	2.8	3.5	金峯山寺	小札
249	⑫	法華経巻第五	十方	27.1	50.8	17	26	21.2	2.0	2.8	欠損	金峯山寺	小札
250	⑬	法華経巻第五	以者	27.3	51.0	17	26	21.3	2.0	2.7	3.7	金峯山寺	小札
251	⑮	法華経巻第五	深入	26.1	51.1	17	26	21.3	1.9	2.8	欠損	金峯山寺	前1紙欠、小札
252	16	法華経巻第五	那由	25.4	50.6	17	26	21.1	2.0	3.7	欠損		
253	⑱	法華経巻第五	是諸	27.5	50.5	17	26	21.1	1.9	2.7	欠損	金峯山寺	前1紙欠、小札
254	⑲	法華経巻第五	尒時	27.5	50.2	17	26	21.2	2.0	2.8	3.6	金峯山寺	小札
255	20	法華経巻第五	於道	27.8	49.6	17	26	21.2	2.0	2.7	3.5	金峯山寺	白い跡あり
256	㉑	法華経巻第五	皆起	27.4	36.3	20(偈)	12	下辺不明	1.9	2.6	欠損	金峯山寺	尾題あり、奥書なし（尾題後余白多い）、白い跡あり、末の天地辺斜めに切断、小札
257	1	法華経巻第六	住(末から４行目３字目)	26.5	27.2	17	14	21.0	2.0	2.9	3.6	金峯山寺	前12行程欠
258	2	法華経巻第六	祇劫自（２行目）	27.6	51.4	17	25	21.2	1.9	3.0	3.4	金峯山寺	前1行欠
259	3	法華経巻第六	佛久	27.6	51.0	17	26	21.2	2.0	2.8	3.6	金峯山寺	天地完存、朱印
260	6	法華経巻第六	訶薩	27.6	51.2	17	26	21.1	2.0	2.9	3.7	金峯山寺	前2紙欠、天地完存
261	⑦	法華経巻第六	復有	27.7	51.6	17	26	21.2	2.0	3.0	3.5	金峯山寺（京博）	
262	⑧	法華経巻第六	於是	27.7	51.4	17	26	21.3	2.0	2.9	3.6	金峯山寺（京博）	

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
184	①	仏説弥勒下生成仏経	佛説	11.2	50.0	6	25	―	1.9	3.4	―	五島美術館	本文首尾完存、首題1行＋本文24行、鳩摩羅什譯、正木直彦旧蔵
185	②	仏説弥勒下生成仏経	此城	11.6	51.9	6	27	―	2.0	3.4	―	五島美術館	鳩摩羅什譯、正木直彦旧蔵
186	③	仏説弥勒下生成仏経	時人	13.0	49.9	8	27	―	1.9	3.4	―	五島美術館	鳩摩羅什譯、正木直彦旧蔵
187	④	仏説弥勒下生成仏経	家學	13.6	51.0	8	27	―	1.8	3.4	―	五島美術館	鳩摩羅什譯、正木直彦旧蔵
188	⑤	仏説弥勒下生成仏経	舍利佛	13.6	50.2	8	27	―	1.8	3.4	―	五島美術館	鳩摩羅什譯、正木直彦旧蔵
189	⑥	仏説弥勒下生成仏経	與色	13.8	47.7	9	27	―	1.8	3.3	―	五島美術館	鳩摩羅什譯、正木直彦旧蔵
190	⑦	仏説弥勒下生成仏経	釋家	13.5	45.3	8	21	―	1.8	3.3	―	五島美術館	寛弘四年奥書、本文16行＋尾題1行＋奥書4行、鳩摩羅什譯、正木直彦旧蔵

藤原師通筆　紺紙金字経

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
191	5	法華経巻第一	諸佛(尾から3行目)	22.0	48.8	12	26ヵ	不明	2.0	不明	不明	金峯山寺	前4紙欠
192	6	法華経巻第一	希有(１行３・４字目)	23.8	49.9	13	26	不明	2.0	不明	不明	金峯山寺	朱印
193	10	法華経巻第一	天号(2行目)	22.5	49.2	20	26	不明	2.0	不明	不明	金峯山寺	前3紙欠
194	11	法華経巻第一	説所(4・５字目)	26.8	50.1	15	26	不明	1.8	不明	不明	金峯山寺	
195	12	法華経巻第一	爾時大衆	27.5	49.5	20	26	不明	1.9	不明	不明	金峯山寺、金峯山寺(龍谷)	龍谷には末尾３行のうち「足道／是事／弗重白」のみあり
196	13	法華経巻第一	言世	27.5	50.5	17	26	21.4	1.9	2.6	3.2	金峯山寺(龍谷)	２片あり、小片には「語時／夷五千人等」のみあり、朱印
197	14	法華経巻第一	善聴	27.3	50.6	17	26	21.6	2.0	3.0	3.2	金峯山寺(龍谷)	末尾「汝今」
198	15	法華経巻第一	衆生是諸佛	27.2	50.5	17	26	21.4	2.0	2.5	3.0	金峯山寺	末尾「諸」以下９字欠、裏に紙片(第14紙部分)貼り付く
199	16	法華経巻第一	比丘比丘尼	27.2	50.1	20	26	21.4	1.9	2.5	3.4	金峯山寺	
200	17	法華経巻第一	欲令	27.2	50.2	16(偈)	26	21.4	2.0	2.7	3.4	金峯山寺	
201	18	法華経巻第一	或以七寶	27.1	49.9	20	26	21.5	2.0	2.5	3.3	金峯山寺	
202	19	法華経巻第一	以種種	27.3	50.2	20	26	21.5	2.0	2.8	3.4	金峯山寺	
203	20	法華経巻第一	舍利佛	27.0	49.2	20	18	21.3	1.9	2.4	3.5	金峯山寺	（尾題）］経巻第一、奥書なし（尾題の後余白多い）、本文17行＋尾題1行
204	7	法華経巻第二	疾出	27.2	50.2	17	26	21.0	2.0	2.9	3.4	金峯山寺	前６紙欠、最末1行分欠
205	8	法華経巻第二	各與	27.5	48.3	17	25	21.2	2.0	2.8	3.5	金峯山寺	
206	9	法華経巻第二	西馳	27.5	50.1	17	26	21.0	2.0	2.9	3.5	金峯山寺	朱印
207	10	法華経巻第二	従佛	27.4	50.0	17	26	21.0	2.0	2.7	3.2	金峯山寺	
208	11	法華経巻第二	鵄梟	27.5	50.6	20	26	21.2	1.8	3.0	3.4	金峯山寺	
209	12	法華経巻第二	為火	50.8	27.4	16	26	21.2	2.0	2.9	3.4	金峯山寺	朱印
210	14	法華経巻第二	日夜	27.4	50.7	20	26	21.3	1.9	2.9	3.4	金峯山寺	前1紙欠、朱印
211	16	法華経巻第二	若他	27.4	50.6	20	26	21.2	1.9	3.0	3.4	金峯山寺	前1紙欠、朱印
212	17	法華経巻第二	如是	27.6	50.4	17	26	21.2	2.0	2.6	3.6	金峯山寺(京博)	
213	19	法華経巻第二	自念	27.5	50.3	17	26	21.3	2.0	2.8	3.5	金峯山寺(龍谷)	前1紙欠
214	⑳	法華経巻第二	中常									伊藤庄兵衛氏	※5
215	21	法華経巻第二	来知	27.4	50.0	17	26	21.2	2.0	2.8	3.4	金峯山寺	朱印
216	22	法華経巻第二	従邑	27.5	49.7	16(偈)	26	21.2	2.0	2.8	3.4	金峯山寺	白い跡あり

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
143	⑱	無量義経	示現	15.4	44.2	9	24	—	1.8	3.2	—	五島美術館	正木直彦旧蔵
144	⑲	無量義経	惚一	15.3	42.7	9	23	—	1.8	3.4	—	五島美術館	正木直彦旧蔵
145	⑳	無量義経	為衆	15.3	42.8	9	23	—	1.9	3.3	—	五島美術館	正木直彦旧蔵
146	㉑	無量義経	神之	15.2	44.6	9	23	—	1.9	3.4	—	金峯神社	
147	㉒	無量義経	香天	15.1	44.6	7	24	—	1.9	3.3	—	金峯神社	
148	㉓	無量義経	会皆	14.8	44.5	7	6	—	1.9	3.1	—	金峯神社	尾題、長徳四年奥書あり、本文1行＋尾題1行＋奥書4行
149	1	観普賢経	佛［	13.3	42.3	7	21	—	2.0	3.1	—	金峯山寺	本文首尾完存、首題の「佛」らしき文字あり、１行目文字なし
150	2	観普賢経	大乗	14.0	44.8	8	23	—	2.0	3.1	—	金峯山寺	包紙に「昭和廿二年四月八日調査」
151	3	観普賢経	鬚化佛	13.3	43.6	8	23	—	1.9	3.2	—	金峯山寺	
152	4	観普賢経	應見	13.5	44.3	8	23	—	2.0	3.2	—	金峯山寺	
153	5	観普賢経	持不	13.6	44.4	8	23	—	1.9	3.1	—	金峯山寺	
154	6	観普賢経	既見	13.6	44.1	8	23	—	2.0	3.1	—	金峯山寺	
155	7	観普賢経	寶光明	14.2	44.5	8	23	—	1.9	3.0	—	金峯山寺	
156	8	観普賢経	諸佛	14.0	44.7	8	23	—	1.9	3.1	—	金峯山寺	
157	9	観普賢経	方等	14.0	44.4	8	23	—	1.9	3.1	—	金峯山寺	
158	10	観普賢経	微塵	14.4	37.1	8	20	—	1.8	3.1	—	金峯山寺	
159	11	観普賢経	諸世尊	14.5	44.4	8	23	—	1.8	3.1	—	金峯山寺	
160	12	観普賢経	諸佛	14.4	44.4	8	23	—	1.8	3.1	—	金峯山寺	
161	13	観普賢経	猴亦	14.5	43.2	8	23	—	1.9	3.1	—	金峯山寺	
162	14	観普賢経	義空	14.4	43.9	10	23	—	2.0	3.0	—	金峯山寺	
163	15	観普賢経	一切	14.4	44.3	10	23	—	1.9	3.3	—	金峯山寺	
164	16	観普賢経	礼十方	14.4	44.3	8	23	—	2.0	3.4	—	金峯山寺	
165	17	観普賢経	養一切	14.5	44.0	8	23	—	2.0	3.4	—	金峯山寺	
166	18	観普賢経	者應	14.3	43.8	8	21	—	2.0	3.3	—	金峯山寺	（尾題）普賢観経、本文17行＋尾題1行＋奥書3行
167	19	観普賢経	長徳四年	13.7	42.7	8	1	—	2.0	3.4	—	金峯山寺	長徳四年七月奥書(奥書１～３行目は第１８紙にあり)あり、巻末上辺斜めに切断、奥書1行
168	1	仏説阿弥陀経	佛説	14.5	49.9	9	25	—	1.9	3.5	—	金峯山寺	本文首尾完存、１行目文字なし、首題1行＋本文24行、包紙に「昭和廿二年四月八日調査」
169	2	仏説阿弥陀経	夜六時	15.1	49.6	9	27	—	1.8	3.5	—	金峯山寺	
170	3	仏説阿弥陀経	数所	15.3	48.9	9	26	—	1.9	3.9	—	金峯山寺	
171	4	仏説阿弥陀経	是称	15.5	53.6	9	27	—	1.8	3.5	—	金峯山寺	
172	5	仏説阿弥陀経	生若	15.3	41.1	9	17	—	1.7	3.3	—	金峯山寺	(尾題)佛説阿弥陀経、寛弘四年奥書、縦界線なし、巻末斜めに切断、本文12行＋尾題1行＋奥書4行
173	①	仏説弥勒上生経	爾時	13.4	45.8	7	23	—	1.9	3.4	—	金峯神社	前２行欠
174	②	仏説弥勒上生経	爾時	13.9	51.3	7	27	—	1.9	3.5	—	金峯神社	後5紙欠
175	8	仏説弥勒上生経					26	—			—		8～10 縦16.7㎝ 全長130㎝、※4
176	9	仏説弥勒上生経					27	—			—		※4
177	10	仏説弥勒上生経	龍八					—			—		寛弘四年奥書、本文1行＋尾題1行＋奥書4行、※4
178	②	仏説弥勒下生経	美果	13.3	51.2	7	27	—	1.9	3.3	—	金峯神社	前1紙欠、竺法護訳
179	③	仏説弥勒下生経	又且	13.8	51.5	8	27	—	1.9	3.3	—	金峯神社	竺法護訳
180	④	仏説弥勒下生経	広分	14.0	51.3	8	27	—	1.9	3.3	—	金峯神社	竺法護訳
181	⑤	仏説弥勒下生経	有越	14.1	50.9	8	27	—	2.0	3.4	—	金峯神社	竺法護訳
182	⑥	仏説弥勒下生経	尊有	14.1	50.9	7	27	—	2.0	3.4	—	金峯神社	竺法護訳
183	⑦	仏説弥勒下生経	或発	14.0	10.9	7	5	—	1.9	3.5	—	金峯神社	6行のみ、後1紙欠、竺法護訳

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
96	①	法華経巻第六	妙法	12.5	33.8	7	16	―	2.0	3.2	―	金峯神社	首題なし、本文初行からあり
97	2	法華経巻第六	若着（２行目）	13.5	46.4	8	24	―	2.0	3.4	―	金峯山寺	
98	④	法華経巻第六	無復	13.8	46.9	7	24	―	1.9	3.3	―	金峯神社	前1紙欠
99	⑥	法華経巻第六	爾時	13.1	46.8	8	24	―	2.0	3.4	―	五島美術館	前1紙欠、正木直彦旧蔵
100	⑧	法華経巻第六	其大	13.9	39.0	9	20	―	2.0	3.2	―	五島美術館	前1紙欠、正木直彦旧蔵
101	⑨	法華経巻第六	若復	13.6	42.2	9	22	―	1.9	3.4	―	五島美術館	正木直彦旧蔵
102	⑩	法華経巻第六	崛山	13.8	46.3	8	24	―	2.0	3.4	―	五島美術館	正木直彦旧蔵
103	⑮	法華経巻第六	若人	14.6	45.0	9	23	―	2.0	3.3	―	金峯神社	前4紙欠
104	⑯	法華経巻第六	百意	14.4	46.9	9	24	―	2.0	3.3	―	金峯神社	
105	⑱	法華経巻第六	膽匐	14.1	46.7	9	24	―	2.0	3.3	―	金峯神社	前1紙欠
106	⑲	法華経巻第六	身所	14.3	47.1	10	24	―	2.0	3.4	―	金峯神社	
107	㉑	法華経巻第六	遍満	14.2	46.4	10	24	―	1.9	3.5	―	五島美術館	前1紙欠、正木直彦旧蔵
108	㉒	法華経巻第六	意功	13.8	43.8	8	22	―	1.9	3.4	―	五島美術館	(尾題)妙法蓮華経巻六、尾題の後ですぐ欠（奥書なし）、正木直彦旧蔵
109	①	法華経巻第七	妙法	14.1	42.7	7	21	―	2.1	3.1	―	金峯神社	首題なし、本文初行からあり
110	②	法華経巻第七	音王如来	14.2	42.8	9	21	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	小札
111	③	法華経巻第七	法華経	14.5	45.1	9	22	―	2.0	2.9	―	金峯山寺	小札
112	④	法華経巻第七	汝意	14.4	44.6	8	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	小札
113	⑤	法華経巻第七	聴受	14.5	44.8	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
114	⑥	法華経巻第七	六種	14.5	44.7	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
115	⑦	法華経巻第七	法如来	15.0	44.2	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	小札
116	⑧	法華経巻第七	名字及言辞	15.0	45.0	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	小札
117	⑨	法華経巻第七	報諸	14.8	45.2	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	小札
118	⑩	法華経巻第七	有八	14.3	45.0	9	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
119	⑪	法華経巻第七	徳佛	15.0	45.5	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
120	⑫	法華経巻第七	尒時	15.2	45.3	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
121	⑬	法華経巻第七	三藐	15.2	45.5	9	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
122	⑭	法華経巻第七	為第一	15.0	45.2	9	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
123	⑮	法華経巻第七	客得	15.2	45.4	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
124	⑯	法華経巻第七	諸魔	15.3	45.4	9	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
125	⑰	法華経巻第七	不可思議	14.8	45.5	9	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
126	⑱	法華経巻第七	薩上	15.3	45.2	10	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
127	⑲	法華経巻第七	説是	15.2	41.1	10	21	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	後3紙欠
128	⑦	法華経巻第八	履〈卅／一〉	15.2	46.6	9	23	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	前6紙欠、小札
129	⑧	法華経巻第八	阿梨	14.8	46.2	9	23	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	小札
130	⑨	法華経巻第八	餓鬼	15.2	46.4	9	23	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	小札
131	⑩	法華経巻第八	荘厳	15.2	46.6	9	23	―	2.0	3.4	―	金峯山寺	
132	⑪	法華経巻第八	水履	15.2	46.8	9	23	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
133	⑫	法華経巻第八	趣故	15.2	46.3	9	23	―	2.0	3.4	―	金峯山寺	
134	⑬	法華経巻第八	善知識	15.2	46.5	9	23	―	2.0	3.5	―	金峯山寺	法華経巻第五⑱～⑲と貼継ぐ
135	⑭	法華経巻第八	菩薩	15.2	46.2	9	23	―	2.0	3.4	―	金峯山寺	法華経巻第五⑱～⑲と貼継ぐ
136	⑮	法華経巻第八	佛言	15.5	46.2	9	23	―	2.0	3.5	―	金峯山寺	小札2枚
137	⑯	法華経巻第八	陀羅	15.5	46.1	9	23	―	2.0	3.6	―	金峯山寺	小札
138	⑰	法華経巻第八	有如	15.2	45.7	9	23	―	2.0	3.4	―	金峯山寺	小札
139	⑱	法華経巻第八	雨當	15.0	46.2	9		―	2.0	3.5	―	金峯山寺	(尾題)妙法蓮華経巻第八、長徳四年奥書 本文17行＋尾題1行＋奥書2行、小札
140	⑲	法華経巻第八	願以	15.0	45.7	9	5	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	巻末斜めに切断、巻末紙、奥書は第１２・１３紙にわたる、奥書5行、小札
141	⑯	無量義経	能通	15.2	43.1	9	23	―	1.8	3.3	―	五島美術館	前15紙欠、正木直彦旧蔵
142	⑰	無量義経	衆生	15.3	43.1	9	23	―	1.8	3.3	―	五島美術館	正木直彦旧蔵

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
51	⑥	法華経巻第三	士調	12.6	44.0	6	22	—	2.1	3.1	—	金峯神社	
52	⑦	法華経巻第三	爾時	12.5	44.4	7	22	—	2.0	3.3	—	金峯神社	
53	⑧	法華経巻第三	脱無	13.1	44.0	6	22	—	2.0	3.2	—	金峯神社	
54	⑨	法華経巻第三	正遍	13.2	44.0	7	22	—	2.0	3.2	—	金峯神社	
55	⑩	法華経巻第三	如来	13.3	44.1	7	22	—	2.0	3.2	—	金峯神社	
56	⑪	法華経巻第三	阿僧	13.4	44.9	8	22	—	2.0	3.3	—	金峯神社	
57	24	法華経巻第三		—	—	—	—	—	—	—	—	石田茂作旧蔵	前12紙欠、※2
58	25	法華経巻第三	佛知ヵ	—	—	—	—	—	—	—	—	石田茂作旧蔵	※2
59	26	法華経巻第三		13.0	47.0	9	23	—	2.0	—	—	石田茂作旧蔵	寛弘四年奥書、本文＋尾題1行＋奥書5行、※2
60	②	法華経巻第四	以斯	12.1	46.4	5	23	—	2.0	3.3	—	金峯神社	前1紙欠
61	③	法華経巻第四	佛國	11.9	46.9	5	23	—	2.1	3.5	—	金峯神社	
62	④	法華経巻第四	法喜	11.8	47.1	5	23	—	2.0	3.3	—	金峯神社	
63	⑤	法華経巻第四	私滅	13.2	47.1	6	23	—	2.1	3.3	—	金峯神社	
64	⑥	法華経巻第四	方便	12.8	47.0	6	23	—	2.1	3.3	—	金峯神社	
65	⑦	法華経巻第四	蔵羅	13.5	47.1	7	23	—	2.0	3.3	—	金峯神社	
66	⑧	法華経巻第四	爾時	13.1	47.1	7	23	—	2.1	3.2	—	金峯神社	
67	⑨	法華経巻第四	我為	13.5	47.1	7	23	—	2.1	3.3	—	金峯神社	
68	⑩	法華経巻第四	見是	13.6	46.9	7	23	—	2.1	3.5	—	金峯神社	
69	⑪	法華経巻第四	浄業	13.7	46.9	7	23	—	2.1	3.5	—	金峯神社	
70	⑫	法華経巻第四	上饌	13.8	46.8	7	23	—	2.0	3.4	—	金峯神社	
71	⑬	法華経巻第四	尊重	13.6	46.8	7	23	—	1.9	3.4	—	金峯神社	
72	14	法華経巻第四	大慈	14.0	46.0	9	23	—	2.0	3.3	—	金峯山寺	
73	15	法華経巻第四	寂漠	13.7	46.1	8	23	—	2.0	3.3	—	金峯山寺	
74	⑯	法華経巻第四	一面	13.7	46.7	8	23	—	1.9	3.4	—	金峯神社	
75	⑰	法華経巻第四	身諸	13.8	44.7	7	22	—	2.1	3.3	—	金峯神社	
76	⑱	法華経巻第四	更変	13.8	44.8	7	24	—	1.9	3.1	—	金峯神社	
77	⑲	法華経巻第四	間訊	13.6	44.6	8	24	—	1.8	3.1	—	金峯神社	
78	⑳	法華経巻第四	久當	13.0	39.8	7	21	—	1.9	3.2	—	金峯神社	
79	㉑	法華経巻第四	荘厳	13.1	43.0	8	23	—	1.8	3.2	—	金峯神社	
80	㉒	法華経巻第四	此経		44.7	7	13	—	1.9	3.3	—	金峯神社	尾題、長徳四年奥書あり、本文6行＋尾題1行＋奥書6行
81	①	法華経巻第五	妙法	12.5	44.8	7	21	—	2.1	3.1	—	金峯神社	巻首からあり
82	②	法華経巻第五	亦不	12.8	46.6	6	23	—	2.0	3.1	—	金峯神社	
83	③	法華経巻第五	若生	13.5	46.5	7	23	—	2.0	3.0	—	金峯神社	
84	④	法華経巻第五	速得	13.6	46.7	8	23	—	2.0	3.2	—	金峯神社	
85	⑤	法華経巻第五	爾時	13.6	46.5	9	23	—	2.0	3.2	—	金峯神社	
86	11	法華経巻第五	顛倒	—	—	10	23	—	—	—	—	成田山書道美術館	前5紙欠、前4行と後19行に2分割されている。前は『穂高下』、後は『穂高』特寸にあり、※3
87	⑯	法華経巻第五	末後	15.0	46.7	9	23	—	2.0	3.1	—	金峯神社	前4紙欠
88	⑰	法華経巻第五	成無	15.0	46.2	9	23	—	2.1	3.2	—	金峯山寺	小札
89	⑱	法華経巻第五	百万	15.2	45.9	9	23	—	2.0	3.1	—	金峯山寺	法華経巻第八⑬～⑭と貼継ぐ、小札
90	⑲	法華経巻第五	易可	15.2	46.0	9	23	—	2.0	3.0	—	金峯山寺	法華経巻第八⑬～⑭と貼継ぐ
91	⑳	法華経巻第五	一千一百	15.0	45.8	9	23	—	2.0	3.1	—	金峯山寺	小札
92	㉑	法華経巻第五	如是	15.0	43.7	9	22	—	2.0	3.1	—	金峯山寺	
93	㉒	法華経巻第五	常行	15.0	41.7	9	21	—	2.0	3.0	—	金峯山寺	小札
94	㉓	法華経巻第五	得道(2行目)	14.5	41.8	9	22	—	1.9	3.2	—	金峯山寺	小札
95	㉔	法華経巻第五	從无	14.7	42.7	10	13	—	2.0	3.1	—	金峯山寺	小札、（尾題）妙法蓮華経巻第五、長徳四年奥書、巻末上辺斜めに切断、本文6行＋尾題1行＋奥書5行

表１　紺紙金字経一覧　藤原道長筆　紺紙金字経

通番	経典別通番	経典名	書出	縦	横	字数	行数	界高	界幅	上欄	下欄	所蔵（保管）	備考
1	①	法華経巻第一	妙法(判読不可)	12.9	33.8	7	17	―	2.0	3.1	―	金峯神社	巻首からあり、後6行程欠
2	2	法華経巻第一	八万人（３行目３字目）	13.5	12.8	5	6.5	―	2.0	3.0	―	金峯山寺	6行半のみあり
3	3	法華経巻第一	属万二千(３行目)	13.5	33.2	8	16.5	―	2.0	3.0	―	金峯山寺	2片に分かれる
4	4	法華経巻第一	尒時	13.5	43.0	8	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
5	5	法華経巻第一	我今	14.5	43.2	8	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
6	6	法華経巻第一	文殊	14.0	43.3	8	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
7	7	法華経巻第一	増上	14.3	43.9	8	22	―	2.0	3.5	―	金峯山寺	
8	8	法華経巻第一	佛子	14.5	43.5	8	22	―	2.0	3.5	―	金峯山寺	
9	9	法華経巻第一	明十	14.5	46.2	8	23	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
10	10	法華経巻第一	十小	14.4	43.4	9	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
11	11	法華経巻第一	偈言	14.5	43.9	10	22	―	2.0	3.5	―	金峯山寺	
12	12	法華経巻第一	説是	14.7	43.2	10	22	―	2.0	3.5	―	金峯山寺	
13	13	法華経巻第一	諸人	14.5	43.3	10	22	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	3行目から妙法蓮華経方便品第二
14	14	法華経巻第一	佛力	14.7	43.4	10	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
15	15	法華経巻第一	比丘尼	14.7	43.7	10	22	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	
16	16	法華経巻第一	尒時	14.7	43.8	10	22	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	
17	17	法華経巻第一	説此	14.8	43.7	9	22	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	
18	18	法華経巻第一	一佛	14.8	43.6	9	22	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	
19	19	法華経巻第一	垢重	15.0	43.7	10	22	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	
20	20	法華経巻第一	譬喩	15.0	43.4	10	22	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	
21	21	法華経巻第一	輪廻	14.8	43.4	10	22	―	2.0	3.4	―	金峯山寺	
22	22	法華経巻第一	或以七	14.8	42.6	10	22	―	2.0	3.4	―	金峯山寺	
23	23	法華経巻第一	安穏	14.9	43.1	10	21	―	2.0	3.2	―	東京国立博物館	
24	24	法華経巻第一	雖復	15.0	44.9	10	22	―	2.0	3.1	―	東京国立博物館	
25	㉕	法華経巻第一	有慚	14.6	44.7	10	11	―	2.0	3.1	―	東京国立博物館	尾題、長徳四年奥書あり、本文4行＋尾題1行＋奥書6行
26	0	法華経巻第二	（表紙）	11.4	15.3			―	―	―	―	金峯山寺	
27	1	法華経巻第二	妙法蓮華経	12.6	44.4	8	21	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	首題1行＋本文20行
28	2	法華経巻第二	金色	13.2	45.9	8	23	―	2.0	3.0	―	金峯山寺	
29	3	法華経巻第二	道故	13.2	46.0	8	23	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
30	4	法華経巻第二	劫華	13.3	46.3	8	23	―	2.0	3.0	―	金峯山寺	
31	5	法華経巻第二	脱身	13.5	27.9	9	14	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
32	6	法華経巻第二	尒時	13.5	19.5	8	10	―	1.9	3.1	―	金峯山寺	
33	7	法華経巻第二	以譬喩	13.9	46.4	8	23	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
34	⑧	法華経巻第二	異之	13.5	46.0	8	23	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	小札※1
35	9	法華経巻第二	利弗	13.8	46.4	8	23	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
36	10	法華経巻第二	無量	14.0	46.7	8	23	―	2.0	3.0	―	金峯山寺	
37	11	法華経巻第二	乗如	13.9	44.9	8	22	―	2.1	3.3	―	金峯山寺	
38	12	法華経巻第二	乗分別	14.0	44.7	7	22	―	2.2	3.3	―	金峯山寺	
39	13	法華経巻第二	如是	14.0	44.6	8	22	―	2.0	3.1	―	金峯山寺	
40	14	法華経巻第二	不受	14.2	46.5	8	23	―	2.0	3.2	―	金峯山寺	
41	15	法華経巻第二	衆聖	14.4	45.8	8	23	―	2.1	3.2	―	金峯山寺	
42	16	法華経巻第二	諸佛	14.3	46.2	8	23	―	1.9	2.9	―	金峯山寺	
43	17	法華経巻第二	即断	14.4	46.8	8	23	―	2.0	3.3	―	金峯山寺	
44	18	法華経巻第二	如斯	13.9	44.2	8	22	―	2.1	3.2	―	金峯山寺	後10紙欠
45	0	法華経巻第三	（表紙）	10.9	9.2	―	―	―	不明	1.4	―	金峯神社	
46	①	法華経巻第三	妙法(判読不可)	12.1	42.2	7	22	―	1.9	3.1	―	金峯神社	
47	②	法華経巻第三	解無	12.2	43.9	6	22	―	2.0	3.1	―	金峯神社	
48	③	法華経巻第三	空佛	12.2	44.2	6	22	―	2.1	3.1	―	金峯神社	
49	④	法華経巻第三	一切	12.3	43.9	6	22	―	2.1	3.2	―	金峯神社	
50	⑤	法華経巻第三	如彼	12.5	44.0	6	22	―	2.0	3.2	―	金峯神社	

奈良国立博物館研究紀要
鹿園雜集　第二十五号
令和五年三月三十一日発行
編集発行　奈良国立博物館
〒六三〇-八二一三
奈良市登大路町五〇番地
印刷・製本　株式会社天理時報社
天理市稲葉町八〇番地